

KIRARI

2月1日

發行

作新学院大学
作新学院大学女子短期大学部

〒321-3295 栃木県
宇都宮市竹下町908
電 話 028-667-7111
FAX 028-667-7110

編集兼発行人 橋立 達夫
編 集
作新PRIDEプロジェクトチーム

お電話相談窓口はこちら
大学・短大 TEL028-670-

総務課(総務関係・施設貸出)	3600
会計課(学納金・経費支払等)	3621
施設課(建物・施設管理)	3631
入試・広報課(受験相談・資料請求)	3655
教務課(定期試験、各種証明書発行)	3662
学生課(奨学金・学生生活相談)	3641
キャリア・就職支援課(求人依頼・就職についての相談)	3645
図書課(図書等の所蔵・貸出し)	3652
学修支援室(図書ネットワーク・情報機器の管理)	3616
地域連携支援センター(大学内産学研究所)	3614

HEADLINE

大学院心理学研究科長「三」	〔一頁〕
『新ハ民を作る 大学として地域に貢献したい』	〔一頁〕
短大 保育所実習はじまる	〔一頁〕
日本語講座『これ、知ってつか!?』	〔一頁〕
作新学院大学と栃木大Ｃとの連携協合意締結	〔二頁〕
清原キャンパスアート⑥『図書館の風景』	〔二頁〕
イベントスケジュール 2・3月	〔二頁〕
編集後記	〔二頁〕

ホームページ
アドレス

<http://www.sakushin-u.ac.jp/>

「新しい民を作る」大学として地域に貢献したい
新たな歩みを進める1年に。

作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部 学長 太田 周



大学

大学 新しい年を迎えました。
作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部は、地域との関わりを一層深め、地域と共に歩む大学として成長できるように、日々の努力と挑戦を重ねてまいります。
経営学部では、4月に「スポーツマネジメント学科」を新設します。

この新学科への関心は非常に高く、昨年のオープンキャンパスでは、多数の高校生が進学相談のブースを訪ねて下さいました。栃木県民のスポー

心の専門家（臨床心理士）を目指す方へ。



作新学院大学大学院心理学研究科長 手塚 光善



こんにちは、教育・医療・福祉などの領域における幅広い問題に対処しうる臨床心理士の育成が求められています。そうした声に応えるべく、心理学研究科は修士（臨床心理学）を授与する大学院として2006年に開設されました。

本研究科に在籍中の大学院生は、本学人間文化学部での学びを経て進学した学生や、他県の大学から進学した学生、あるいは社会人としての経験を経て進学した学生など多彩です。

これらの学生たちには、ここ栃木県の出身であったり、何らかのゆかりがあるという共通点があります。学生たちは、栃木の地に根差した相談活動ができる臨床心理士となるべく、日々研究に励んでおります。その努力が実を結び、すでに25名の臨床心理士が誕生し栃木の各地で活躍しております。さらに本年度も15名が臨床心理士の資格を取得し、大変心強く思っております。これからは心の専門家（臨床心理士）を指す方の入学を心よりお待ちしております。今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



スポーツが盛んで、4つのプロスポーツチームが存在する栃木県ですが、その経営には課題も存在します。経営的には限られたスポンサーを取り合う厳しい環境があり

営スタイルの構築や各種施策の提案を行います。これらは、地域における教育・研究機関としての大学の使命だと思えます。本年も、どうぞよろしくお願いいたします。

を、再認識しております。

私たち教職員も「スポーツマネジメント学科」を選んだ学生が、プロスポーツ団体やスポーツ関係のメーカー、小売業など、県民とスポーツの接点で働く人材として活躍できるように、教育体制を整えて春の到来を待っています。

ます。そこで本学は昨年、県内4つのプロスポーツチームと連携協力協定を結びました。共存共栄の精神のもと、本学が連携のハブの役割を担って、地域におけるスポーツ文化の浸透とスポーツ経営の両立を目指します。その活動の中で私たちは、「栃木モデル」と呼べるプロスポーツチームの経

保育所実習はじまる

学びの成果を

笑顔にこめて!!

大
2月3日(月)

短大
は、1年生の保育所実習
が行われます。

短大

「子育て支援」や「待機児童解消」など、最近は何育に対する社会の関心が非常に高くなっています。

保育所は、児童福祉法の規定に基づく児童福祉施設です。対象が0歳児から小学校就学までと幅広く、保育時間も1日原則8時間と幼稚園に比べて長く

なっています。保育所に就職するためには、保育士資格を取得する必要があります。今回の保育所実習は、資格取得のための重要な実習の一つなのです。

学生達は、乳幼児の生活や遊びを観察しながら実際に子どもたちとふれあうことで、保育所の1日の生活プロセスを理解して行

これ、知ってっか!?

次の漢字の読み方は、
なんて読むでしょう？
意味も調べてみてね

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| ⑦ 緝
綴 | ⑤ 雋
茂 | ③ 蘊
蓄 | ① 恤
民 |
| ⑧ 扛
鼎 | ⑥ 剔
抉 | ④ 驟
雨 | ② 燦
然 |

答えはWebで▶▶▶ <http://sakushin-u.ac.jp/answer/2014-2/>



作新学院大学と栃木SCとの連携協力合意締結

経営

1月29日(水)、
本学は栃木SC
との共同記者会
見を開催し、連携協力合意書
を締結しました。このたびの合
意は、昨年9月に締結した「作
新学院大学と4プロスポーツ
チームとの連携協力に関する協
定書」にもとづくもので、「両
者の人的・物的・知的資源の
活発な交流と活用を図り、もっ
て地域活性化への貢献とスポー
ツの振興に寄与するとともに
相互により一層の充実と発展を
遂げることを具体化する第二
歩となります。

本学からはTSCユースチー
ムに対しサッカー場や屋内施設
を無償貸与するとともに、ダブ
ル及びセカンドキャリアの形成
を支援する教育プログラムの開
発と提供を行い、TSCからは
本学サッカー部に対するアカデ
ミーダイレクターによる強化指
導のほか、トレーナーや講師の
派遣、インターンシップの受け
入れなどが行われます。また、
サッカースクールを共同で開催
して、人材育成とスクール経
営に学生が参加する体験の場
ともしていきます。

共同記者会見には、本学か
ら太田学長のほか、本学卒業
生である元栃木SC選手の入



江サッカークラブコーチ(スカウティ
ング担当)が出席し、「栃木S
C・ユースとの連携により、将
来作新学院大学出身のJリー
ガーを輩出したい。」と抱負を
述べました。栃木SCからは水
沼副社長のほか、上野栃木S
Cアカデミーダイレクターが出
席し、「県内に優秀な人材をと
どめることで、サッカーを通じ
て栃木県のスポーツ界が盛り上
がり、地域の活性化につながる
事を期待しています。」との見
解が表明されました。

経営学部としては、この4月
に開設されるスポーツマネジメ
ント学科を軸に、2020年
の東京オリンピック・パリン
ピックも視野に入れ、スポー
ツ振興「栃木モデル」の構築に
向けた産官学連携の取り組み
をより一層進めていく所存です。

カウンターに座っ
て、本の貸し出しを
するたびに思った。
『何かひと工夫でき
ないかしら?』
そこで、手が空い
たときに、こそこそ
工作をしてパネルを
作ってみたら、「これ
どうやって作るんす
かあ?」と、短大生
が食いついた。
いたって簡単。図書
館にストックしてある
A4サイズのボール紙
に、デコレーションパ
ネルをカッターナイフ
で切り取って張り付け
ただけ。ご覧のとお
り稚拙な出来である。

しかし、私は褒めら
れて調子に乗リ、節分
ひな祭り、ハロイン
クリスマスとパネルは
いつのまにか季節ごと
に増えていった。
以前参加した研修
会で、少したけ図書館
ディスプレイについて
学んだ。カウンター周
りを明るく、人の目に
留まる仕掛けをするこ
とが入館者増加につな
がれればと思う。
私の作るパネルが入
館者数増加の手助けに
なっているかは疑問で
あるが、気付けば次に
作るパネルのデザイン
を考えている。(石川)



「図書館の風景」 シリーズ⑥ 清原 キャンパスアート

31日 短大 2年生オリエンテーション	22日 短大 春のオープンキャンパス	16日 大学・短大 学位記授与式 謝恩会	14日 大学 入学試験第3回 入学試験第3回	8日 大学院 大学院入学試験Ⅱ期	4-2日 短大・短大 幼児体育指導者検定講習会	2014 3月	25-24日 短大 赤十字幼児安全法講習会	21日 大学 一般入試第2回 特別選抜入試Ⅱ期	2日 短大・大学 一般入試第1回 一般入試	2014 2月	イベント スケジュール
---------------------------	--------------------------	-------------------------------	---------------------------------	------------------------	-------------------------------	------------	-----------------------------	----------------------------------	--------------------------------	------------	----------------

編集後記

大学は多数の聖火ラン
ナー達の集合です。世の
中の隅々を照らす知識と
創造の灯「学燈」をつ
なぎ次世代に渡す聖火ラ
ンナー達です。恩師の教
えを学び、新たな工夫を
加えてそれを後世に伝え
る営みを続けているので
す。作新学院大学、作
新学院大学女子短期大
学部は、創立以来、延べ
千人余りの教員が1万
人以上の卒業生を送り
出してきました。そして
卒業生の多くが、栃木県
内を中心に全国で、世界
で活躍しています。この
学燈の広がり、これこそ
作新PRIDEです。

昨年5月の発行以来
燦(きらり)は本号で6
号となりました。作新P
RIDEを語ることを編
集の基本方針としなが
ら、編集者自らの「何号
まで持つか」という自虐
ネタには、ご批判もいた
だきましたが、プライド
は自らを誇り、胸をさら
せることだけではありま
せん。良い面も悪い面も
すべてさらけ出し、それ
を基盤に「ここで生きる
という気概と欲びを示す

ことが、真のプライドだ
と考えています。自分を
笑うことのできるプライ
ド、魅力的ですよ。(笑)
作新学院大学は、今
日まで、まちづくりや行
政への協力、施設開放
公開講座など、様々な
形で地域貢献活動を進
めてきました。一方、市
民や卒業生の皆様、経
済界、行政に様々なご
支援をいただきました。
大学から社会に対してお
願いたいことも、実は
たくさんあるのです。地
域の中での実習で学生達
は大きく成長していきま
す。狭い意味のプライド
が邪魔して協力をお願い
できないのではその可能
性をつぶしてしまいます。
これからも地域とともに
歩み実践を学ぶ作大・
作短の活動に温かいご理
解とご支援を賜りますよ
う、お願い申し上げます。
さて、本年度の燦(き
らり)は本号で終了し、
次号は新たなチームメン
バーで、平成26年の第1
号として4月に刊行いた
します。半年余りのご愛
読に感謝申し上げますと
ともに、新年度もよろし
くお願い申し上げます。
(橋立)